

## 第2回推進協議会、第3回推進有識者会の議事概要

	議事	分類		意見等	対応の方向性
第2回 協議会 12/13	区交通の課題について	ライフステージについて	ライフステージごとの検討整理について	ライフステージごとに課題を取り上げるというのは、非常にいいやり方だと思う。ゆくゆくはこの部分をもう少し充実させて欲しい。	意見を踏まえ、今回の素案で構成した。
		地域別について	平和島駅周辺について	平和島駅周辺ということであれば、駅の東側、西側、それぞれ問題点は違うが、駅周辺の課題として取り上げて欲しい。	平和島駅周辺の課題を踏まえ、施策について改善策を検討する。
		その他について	無電柱化について	無電柱化は、防災面や安全面で交通と非常に関わりが深いので、積極的に検討していくことが必要になるかもしれない。	意見を踏まえ、施策として検討していく。
			交通安全対策について	通学路の交通安全対策は、しっかり行って欲しい。	交通安全対策について、計画を検討、整理していく。
		バリアフリーについて	障がい者総合サポートセンターへ行く際はもちろん、区全体でのバリアフリーも、積極的に進めて欲しい。	バリアフリー化について、計画を検討、整理していく。	
	計画の全体像(フレームワーク)(案)について	計画の体系について	フレームワークの表現について	似たような表現がいろいろあるので、区民の方、関係者の方がさらに分かりやすい言葉遣いにするよ。	わかりやすい言葉遣いを検討していく。
		計画の目的(将来像)について	キャッチコピーについて	キャッチコピーは、「計画の理念」できちんと押さえれば、すべてを俯瞰的に網羅しなくても、何か特色のある言葉だけでもよいのではないか。防災力という観点の言葉が、もう少しあっても良い。	意見を踏まえ、今回「ライフステージに寄り添うモビリティシティ おおた」と設定した。
		施策について	緊急に対策が必要な踏切への対策について	鉄道事業者として、一緒に課題解決に取り組んでいきたい。	「緊急に対策が必要な踏切への対策」について、鉄道事業者と連携して内容を詰める。
			「都市の活力」での「交流」について	「都市の活力」について、もう少し「交流」を意識するような施策を整理することが必要ではないか。若い世代にも配慮した内容、例えば生活空間や滞留空間、駅などの公共空間などを活力の場としてどうしていくかなども盛り込まれると良い。	意見を踏まえ、施策の方向性として、「交流の場の強化」を打ち出す。
			子育て世代のための移動の支援について	自転車(3人乗り)は、子どもの安全面で問題がある。子育て世代が、もっと外出しやすい施策支援を行ってほしい。	課題を踏まえ、施策について改善策を検討する。
			高齢者の移動の支援について	自転車走行のために空間整備することは大切であるが、安全面で完璧とはいえないので、移動支援の方法を考えてほしい。	
			臨海副都心の客船利用客を視野に入れた空港臨海部の機能強化について	臨海副都心に客船が乗り入れるようになれば、アクセス交通の整備促進が不可欠である。	
	リーディングプロジェクトについて	リーディングプロジェクトの理由付けについて	リーディングプロジェクトの選定には、理由付けが必要だと思う。	意見を踏まえ、今回の素案で考え方を示した。	
	計画のイメージについて	計画での見せ方について	ライフステージごとのイメージの提示について	ライフステージの切り口で、どんな施策があって、それがどんなイメージで、効果があり、目的達成に近づいているかなどがイメージできるとよい。	計画の目指す姿等で、施策をライフステージごとに束ねて示すことを検討する。
モニタリング指標について		モニタリング指標の扱い方について	モニタリング指標についてどのような整理をするのか、検討が必要。	意見を踏まえ、検討していく。	
第1回区民アンケートの調査結果(速報)について	取組みの満足度について	自転車に関わる取組みについて	「自転車のマナーが悪い」ということが一番不満が多くなっていることは、区民と一緒に取組を進めるための良い根拠になる。	アンケート内容を踏まえ、今後計画を検討、整理する。	
	追加集計について	世代別分析等について	第2回区民アンケートを行う前に、第1回アンケートで結果が顕著に出ているところについて、世代別の分析をして欲しい。	2回目のアンケートの調査対象や調査内容を検討するため、第1回アンケート調査について世代別の分析等を行う。	
その他の意見	計画策定について	区民や様々な組織等との協力、連携について	各事業者の企業理念や方向性を踏まえたうえで、交通事業者、区民、行政が一緒になって取り組んでいける出発点となるような計画にしていきたい。	今回の素案で、推進体制について考え方を示した。	
第3回 有識者 会 1/30	第1回、第2回協議会の委員意見と対応の方向性について(報告)	計画の全体像(フレームワーク)における施策について		「高齢者の移動支援」という表現があるが、できれば「高齢者・障がい者」と入れたほうがよい。	「高齢者・障がい者の移動支援」と修正する。
		計画の骨子(素案)について		従来型の計画の作り方は、行政計画的にはわかりやすいが、今回はアンケート等で区民に参加していただいているので、区民向けの立場での表現が重要。関係者・行政と区民との両方を向きながら、計画を進めてほしい。 対象とする交通手段として、ライドシェアはどう位置づけるか。ICTは全てに関連する項目である。	行政、事業者向けとは別に、区民向けのものをつくることで調整する。 「対象とする交通手段」にICTの項目を追加する。 ライドシェアの位置づけについては、国の動向等を踏まえ、検討していく。
	区交通の現況と課題について		ライフステージに関する交通課題については、全ての人が対象となるように表現したほうがよい。	意見を踏まえ、今回の素案を構成した。	
	交通政策基本計画の基本的な考え方について		交通の理念(キャッチフレーズ)は、キーワードが長く続き、より、「〇〇〇のおおた」という感じの一言で言い表すほうがよい。 交通を整備した結果、福祉の分野ではどのような世界が実現できるかなどを意識した構成にすることが必要。	意見を踏まえ、今回「地域と調和したモビリティシティ おおた」と設定した。 交通政策基本計画として、従来の交通計画との違いを意識して、構成、内容で調整する。	
	施策展開について(リーディング・プロジェクト等)		福祉や子育てに関わるリーディングプロジェクトが盛り込まれると、他の自治体で策定している交通計画とは違う印象を与えられる。よって、福祉等の施策で先駆的なプロジェクトを盛り込めるか検討するとよい。 表現・説明の内容などは、区民向けと行政向けでは異なるので、まず行政向けのまとめ方にして、これを基に区民向けにわかりやすく再構成するという考え方もある。 仮に目標年次を10年先としても、当然その先も見据えてどのような検討が必要か表現したほうがよい。 新しい取り組みについては、リーディングプロジェクトで推進できるような書き方にしたいほうがよい。 社会実験的なことも表現してもよい。	交通政策基本計画として、従来の交通計画との違いを意識して、リーディングプロジェクトを検討していく。 意見を踏まえ、表現方法を調整する。	
			区民からすると、モニタリング指標については、施策の実施後、結果がどうなったか、その達成の有無がわかるアウトカム指標が重要である。	モニタリング指標については、左記内容を踏まえ、検討していく。	
			コミュニティバスと一般路線バスとのネットワークを再構築する時期にきている。このような視点から今後のコミュニティバスについての検証が必要である。	意見を踏まえ、今後バス事業者と検討していく。	
	第1回区民アンケート調査結果について	区民からの意見のとりえ方について	アンケートで抽出できなかった課題については、区民説明会などの別の方法で、区民の意見を反映させる体制が必要である。	今年の8月に区民説明会、年末にパブリックコメントを予定し、区民からの意見を反映させる。	